

学道一如

発行 高校
小樽双葉部
新聞部
2026年4月8日
第1号

合格体験談

3月末、終業式が終わってから、朗報が飛び込んだ。国公立大学後期試験に中橋乃蒼さん、久米うたさんの2名が合格した。それぞれに目指す道が明確で、面接試験でもそれが伝わったようだ。志望校合格に至る経験を聞いた。

特別支援の教員を目指す 北海道教育大学札幌校 中橋乃蒼さん(元3ー1)



限られた時間を有効活用

乃蒼さんは特進クラスの中で、も上位層に定着出来るよう、日々の努力を怠らなかつた。家庭では料理などの家事をこなしながらの勉強(例・日本史の授業動画をしながら食事の準備)、隙間時間(通学時間、昼休み、放課後)を活用するなど工夫して、一日に四〜五時間の学習時間を確保した。頑張ることができたのは、「先生方、家族、友人らの支えがあったから。共に頑張る仲間がいたから」だ。

生徒の長所伸ばす教師に

札幌大に決めたのは、小中出会った特別支援学級の先生方の生徒への向き合い方に心を動

かされたからだ。「できないことと目を向けるのではなく、生徒の長所を伸ばす指導だった。」

また、札幌大は自宅から通えることも選択理由だった。高2の秋には特別支援に特化した大学をと、志望校を決めていた。

後期日程は短期決戦

前期日程では不合格だった。ショックではあったが、気持ち切り換え、後期日程の準備を始めた。山内先生に面接練習をしてもらい、基本の動きや志望動機を定着させ、北村先生から教育用語を教わり、話す内容を吟味した。特別支援教育への特別な思いが本物の言葉として伝わったはずだ。

本番の面接では、一年生の統計グラフコンクールで入選したこと、AIと人間の関わりについて聞かれた。

教科ごとに対策練る

教育大は共通テストの比重が大きい。得意教科は政経、日本

史、現代文、理系は苦手だ。日本史は料理しながら授業動画を流し見したら、授業の理解度が深まった。現代文は授業内容もさることながら、北村先生のお話、アドバイスが効いた。「メンタル面、人にどう思われるかではなくて、能動的な立場で人に自分をどう思わせるかが大切」だと教わった。苦手な数学は宮原先生に友達と個人指導も受けた。理科は学校の問題集を繰り返し解いて対策した。また、一・二年では模試の過去問を解き、三年では共通テストの過去問を解くことも力になったと振り返る。

メンタル面の安定を

それでも不安で眠れなくなる日もあった。睡眠時間が5時間だと寝不足で、7時間確保できるようにして体調管理に努めた。

産業獣医師として命の尊さを伝えたい

帯広畜産大学 獣医学部 久米うたさん(卒業生)

命をいただく思い伝える

小2から産業獣医師を目指し、一浪して、その夢へ一歩近づいた久米さん。牛や豚などの家畜を専門とする産業獣医師を意識したのは、食に興味があったからだ。「母が家庭科教員だったこと、仏教系の幼稚園にいたことも影響しているかもしれませ

家事のため、毎朝、5時半には起床した。

後輩へのアドバイスとして「普段からメンタル面を大事にして安定させて」と語る。「人間関係に悩むこともあると思う。でも他のクラスの人の関わりで違う見方があることに気づかされた。うまくいかないとき、時間の流れに身を任せ、現状を受け入れる。やがて変化していくことを身をもって知った。また、自分の好きなことを大切に、心のバランスを保つのもいい」と語った。

教育界には不登校やいじめ問題があるが、「子どもたちのメンタル面のサポートをしたい。子どもの特性から生じる困りごとと一緒に解決できるような」教員を目指す」と語ってくれた。

命の尊さを伝えたい

「命」をいただいているという事実があります。獣医になり、現場に立ち合うことで、それを納得させられると思います。」

浪人中、理系を伸ばす

現役では届かなかった獣医学部だが、「二浪はしたくない」と奮起し、模試成績も大幅にアップした。「獣医学部は6年間、大学院に進むとさらにかかるので、なるべく早く現場に出たい

という思いもありました。」前期日程では北大理系総合を受験して不合格に。「大学受験で進路を決めるのではなく、一年間の猶予があるのが魅力だった。」後期日程では帯広畜産大学の獣医学部で合格。「前期の結果は悔しかったが、絶対獣医になれるのでうれしいです。」

浪人中、伸びたのは理数系科目だ。数学は二次試験まで伸びた実感がある。また、タブレットだけでなく、紙に書いて覚えることも予備校教師から勧められた。特に英単語、生物や化学の分野だ。「受験勉強は大変とは思わず、できるようになれば楽しいと思っています。こうすればできるよになるとわかれば、自信になります。」

高校時代いろいろな経験を

入試の面接では、調査書を見て褒められた。「いろいろなことをやってきましたね」と。サウスバリーントン高校派遣プログラムや東南アジアへの短期留学の経験、英語スピーチコンテストの出場、各種ボランティアへの参加などが評価されたようだ。

また、志望理由などのほかに「動物実験についてどう思うか」と聞かれ、「動物実験によりわかることがあるのでなくすべきではない。動物の命に関わることなので動物福祉の視点は大切にしたい」と述べた。有言実行の久米さんの今後の歩みを期待したい。